



伊江島地區警備規定ヲ本冊ノ通  
定ム

昭和十九年七月 日

伊江島地區警備隊長

西村信義

伊江島地區警備規定

第一方針

- 一 主力ヲ以テ伊江島ニ堅固ナル陣地ヲ構成シ至嚴ナル警戒トシテ猛烈ナル訓練ヲ實施シ警備ノ完璧ヲ期ス
- 二 尚一部ヲ渡久地ニ配兵シ伊江島ト本島トノ交通ヲ確保ス
- 三 防衛隊並ニ地元官民ヲ指導シ陣地ノ構築ヲ實施セシムルト共ニ所要ノ訓練ヲ行ヒ以テ警備ニ積極的ナル協力ヲナサシム

第二兵力

- 長 獨立混成第十五聯隊第三大隊長 陸軍大尉 西村信義
- 警備隊 獨立混成第十五聯隊第三大隊 聯隊砲一小隊
- 協力部隊 獨立連射砲第七大隊第一中隊 (飛行場第五大隊 (配屬部隊ヲ含ム) 砲隊 (在伊江島及本郡町部隊) 砲隊 (在伊江島中隊 (在御軍人ヲ以テ組織))

本部中隊  
今歸仁中隊

### 第三 警備 地區

伊江島及古宇利島、乙羽岳、八重岳、御間原ヲ貫ク線ヲ含ム北面地域

### 第四 警備 要領

- 一 警備、擔任ハ附表第一ニ據ル(時日、經過ニ伴ヒ若干変更ス)今歸仁村及本部町ニ於ケル防衛並ニ警備ハ警備隊長(渡久地ニ派遣)ヲ將校一、指導ノ下ニ渡久地派遣部隊及該地區防衛隊之ニ任ジ官民ヲシテ之ニ協力セシム
- 二 各隊ハ附表第一(本表ハ軍ニ極秘ナルヲ以テ必要ノ最少限ヲ關係ノ軍隊ノミニ交付)ニ示ス地區ノ陣地ヲ堅固ナシムルト共ニ少クモ一日ニ一回以上斥候ヲ派遣シ海岸地帯ノ警備ヲ實施スベシ斥候派遣ノ地域ハ附表第一ニ據ル
- 三 飛行場大隊ハ附表第一ニ示ス地域ノ警備ニ任ジ曉部隊(在伊江島及本部町部隊)ハ海上ノ警戒連絡ヲ擔任スルモノトス  
尚海上ノ警戒連絡ニ関シテハ各隊ハ之ニ協力スルモノトス、特ニ渡久地ニ派遣ノ警備隊ハ本島ト伊江島ノ連絡ノ確保ヲ主任務トス

### 第五 對 空

- 一 對空ニ関シテハ警戒ヲ嚴ナラシムルヲ要ス、之ガ爲步兵大隊飛行場大隊毎ニ常時對空監視哨及對空射擊部隊ヲ設ケ之ガ監視並ニ射擊ノ準備ヲ實施アルヲ要ス其他ノ部隊モ對空監視哨ノ配置ハ必ず實施スベシ敵機ノ未襲ニ際シ射擊ヲ適當トスルヤ又地形地物ヲ利用シテ部隊ヲ疎開スルヤハ狀況ニ依リ決定スルモ擊墜確實ト判断スル場合ノ外ハ濫ニ射擊セザルモノトス
- 二 宿營中對地爆撃ヲ受クル虞アル際ハ各隊(對空射擊部隊ヲ除ク)ハ不取敢疎開シ豫メ準備シタル待避壕ノ利用ニ勉ムベシ之ガ爲各隊ハ之ガ訓練ヲ及復實施シオクモノトス
- 三 二事中ト雖モ各隊ハ常ニ彈藥ヲ携行シ對空動作ニ遺憾ナキヲ期スベシ特ニ敵ノ空中ヨリノ降下ニ際シテハ機ヲ失セズ果敢ナル攻撃ヲ決行シ其ノ初動ヲ制壓スベシ
- 四 對空ニ関スル報告並ニ各隊相互間ノ連絡ハ最モ迅速ヲ期スルヲ要ス

### 第六 海上 警戒

海上ノ警戒ハ曉部隊之ニ任スルノ外各隊モ亦之ガ警戒ニ任ズベシ  
特ニ各隊ハ曉部隊ト連絡ヲ密ニスベシ

二 伊江島西端燈台附近ノ水際障害物ノ構築ハ飛行場大隊特ニ建築中隊協力ノ下ニ第九中隊ニ於テ早急ニ實施シ爾後之ガ強化ヲ圖ルモノトス

警備一般ノ要領ハ前請項ノ外逐次命令ス

### 第七 戰 備

- 一 戰備ノ度ニ關シ左ノ如ク定ム
  - 甲 各隊ハ戰闘ノ配備ニ就ク 狀況ニ依リ之ノ休憩ヲ許ス
  - 乙 至嚴ナル警戒姿勢ヲトリ一部ハ戰闘配備ニ就クシム 狀況ニ依リ之ノ休憩或ハ他ノ業務ニ就カシム
  - 丙 各隊毎ニ直接警戒ノ實施ス 但シ所要ノ斥候ハ附表第一ニ示ス地域ニ派遣スルモノトス
- 二 服裝ハ甲乙ノ場合ハ背囊ヲ除ク單装ニシテ彈藥及糧秣三日分ヲ携行シアルヲ要ス
- 三 戰備ノ度ヲ何レニスベキヤハ其ノ部長警備隊長之ヲ命ス
- 四 各隊ハ彈藥及糧秣ヲ空爆ヲ顧慮シ應敵分置シオクベシ 特ニ主要火砲ノ掩蔽ニ留意スベシ 尚離隔シアル陣地ニハ所要ノ食糧及水ヲ豫備ニ準備シオクモノトス

### 第八 警 報

警報ノ種類左ノ如シ

種別	傳達方法	警報器	哨	口頭摘要
非常警報	長音一聲	非常呼集	非常	
飛行機警報	短短長音連續 五秒五秒十秒 長短長音	飛行機	哨ハ一聲 一回	飛行機
機甲部隊警報	長音三聲 十秒十秒十秒	機甲部隊	哨ハ一聲 一回	機甲部隊
瓦斯警報	長音四聲 十秒十秒十秒十秒	瓦斯	哨ハ一聲 一回	瓦斯
火災警報	長音四聲 十秒十秒十秒十秒	火災呼集	火災	火災

- 一 各音ノ間隔五秒トス
- 二 警報解除ハ總テ哨ハ「休メ」又ハ音聲ニヨリ傳達ス
- 三 非常警報ノ發令ハ警備隊長(飛行場大隊長)トス 其ノ他ハ作戰要務令ニ據ル

其他

- 一 警報ニ對スル處置ハ各隊毎ニ定ムルモノトス
- 二 防諜ニ類シテハ各隊毎ニ責任者ヲ定メ之ガ取締ヲ嚴ナラシムベシ
- 三 防火ハ各隊長ニ於テ之ガ對策ヲ講ジ且之ガ教育ヲ實施シオクモノトス
- 四 夜間別命ヲキ限リ常時燈火管制ヲ實施スベシ
- 五 各隊ハ一週一回以上自己部隊擔任区域内ノ警備演習ヲ實施スルモノトス
- 六 一般ニ下士官以下公用以外民家ノ立入並ニ生水ノ飲用ヲ嚴禁ス
- 七 軍隊内務ニ關スル諸事項ニ關シテハ警備ニ支障ナキ範圍内ニ於テ警備隊長飛行場大隊長(之ニ準ズル獨立隊長)ニ於テ處置スルモノトス
- 八 警備關係ノ報告系統



連絡通報

警備間情報ノ收集並ニ交換ノタメ連絡通報スベキ部隊官衙左ノ如シ

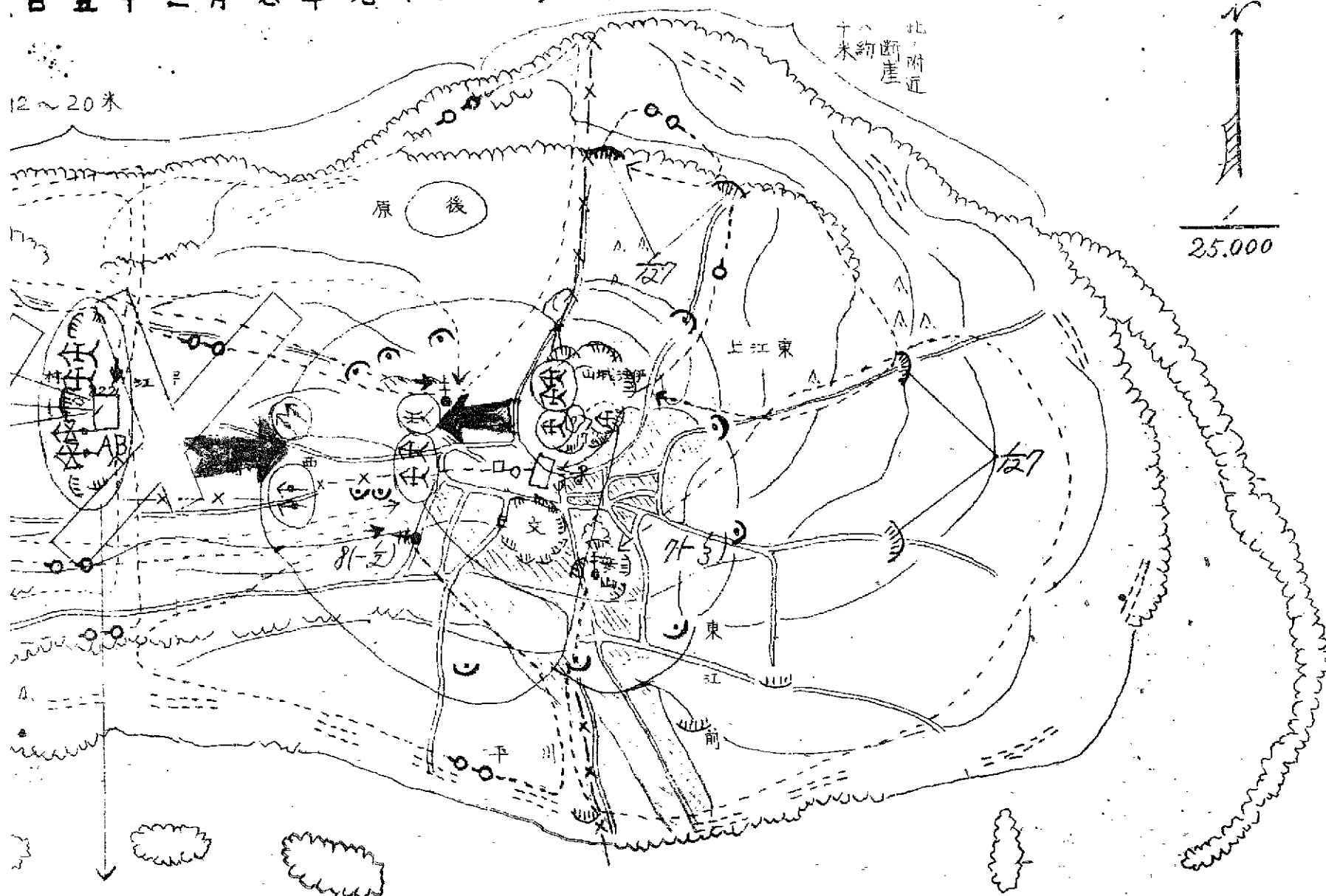
- 警備隊本部
- 飛行場大隊
- 在名護警備隊本部
- 伊江村役場
- 本部警察署
- 本部町役場
- 今歸仁村役場



# 伊豆島警備

(昭和十九年七月二十五日)

12~20米

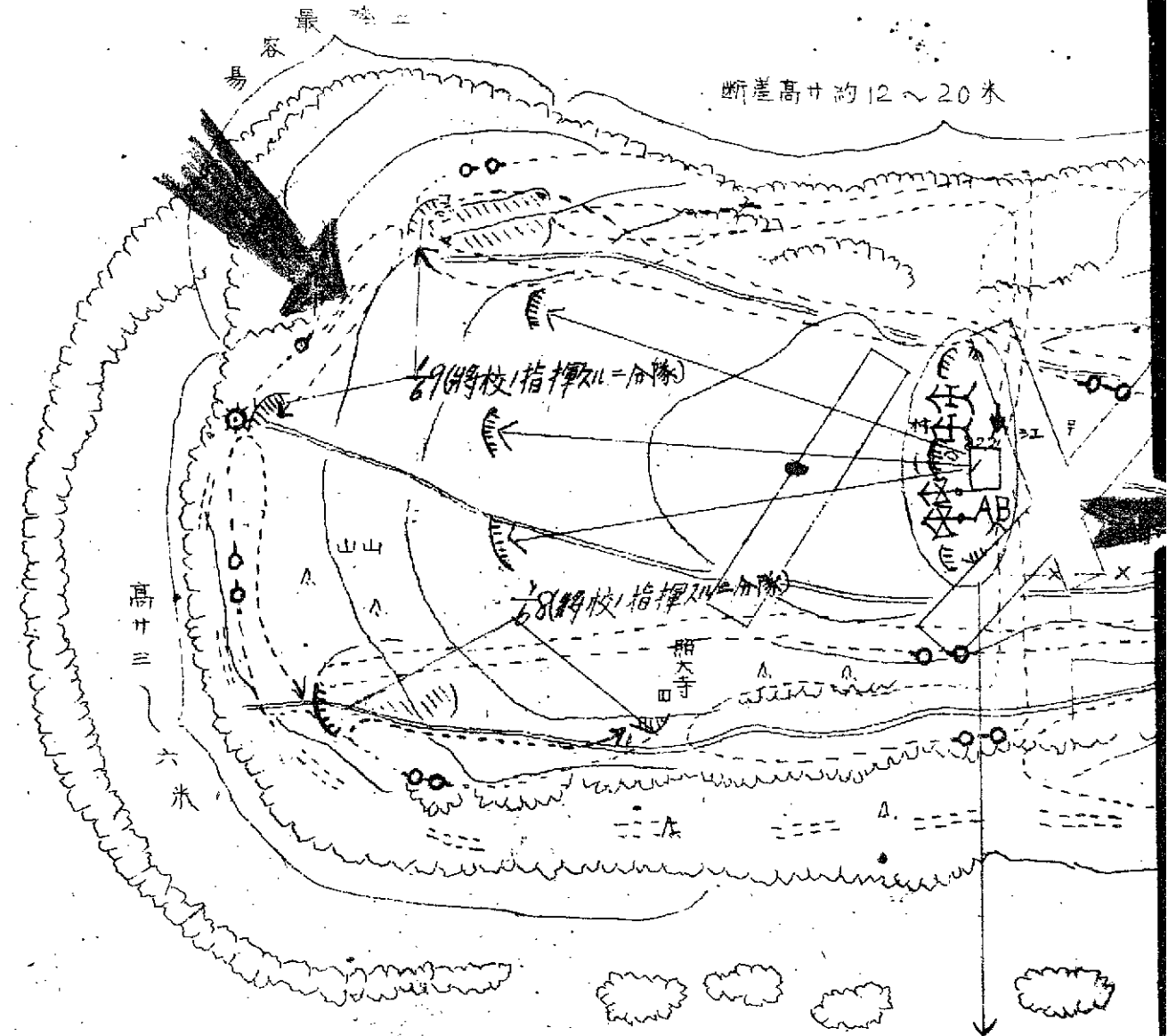


守備隊の要圖ノ如ク陣地ヲ編成シ所在部隊ヲ以テ敵ヲ水際ニ撃滅ス  
 ルコトニ努メ且侵入セル敵ニ對シテハ猛烈果敢執拗ナル挺身奇襲ヲ  
 敢行シ敵ヲ村落ノ西側地區ニ撃滅ス  
 極メテ優勢ナル敵ノ攻撃ヲ受クルモ伊豆城山國民學校女山ヲ確保シ  
 機ヲ見テ逆襲ニ轉ジ飛行場使用ヲ不能ナラシム  
 敵ノ艦砲射撃空爆ニ對シ特ニ損害ヲ皆無ナラシムル如ク勉メテ基地  
 ヲ利用スルコトニ努ム

警備隊ヨリ獨逸  
 一八隊(二門)  
 掩護部隊步兵

# 警備要圖

(在現日五十二月)



## 註

一 本警備要圖ノ陣地完成迄ニハ地質ノ關係上(全島殆ト硬性ノ珊瑚礁) 約一ヶ月ヲ要ス(八月十日頃概テ完成豫定)爾後構築日時ヲ得ルニ 從ヒ増強ス

二 敵ノ主攻撃ヲ豫想スル地區ニハ鉄條網ヲ設置シ又ダイナマイトノ交 付ヲ受クレバ對戰車壕ヲ構築スル企圖ヲ有ス

三 海岸近ク設ケタル偽陣地ニハ偽兵ヲ配置スル豫定

四 渡久地ニ第七中隊ヨリ將校ノ指揮スル二分隊ヲ派遣シ本島トノ連絡 ヲ確保ス尚本部所屬今歸仁村ノ海岸防禦ハ將校指導ノ許ニ地元在郷 軍人ノ組織セル防衛隊本部中隊(一九八名)及今歸仁中隊(二四九 名)ヲ指揮シ依リ指揮スシテ實施ス

五 備瀬附近ニ重砲ヲ配置シ伊江島ノ東北側及西側海面ヲ射撃シ得ル如ク 早急ニ手配セラレ度

## 地形

一 上ノ特性ニ應ズル準備事項

二 伊江城山ヲ除ク外全島殆ト平坦地ナルヲ以テ敵戦車ノ陸セバ行動極メテ容易ナリ然レトモ海岸及村落ノ前端等ハ肉迫攻撃ヲ敢行スルニ適スル地形地物アルヲ以テ速ニ對戰車肉迫攻撃資材ヲ多量ニ交付セラレ度

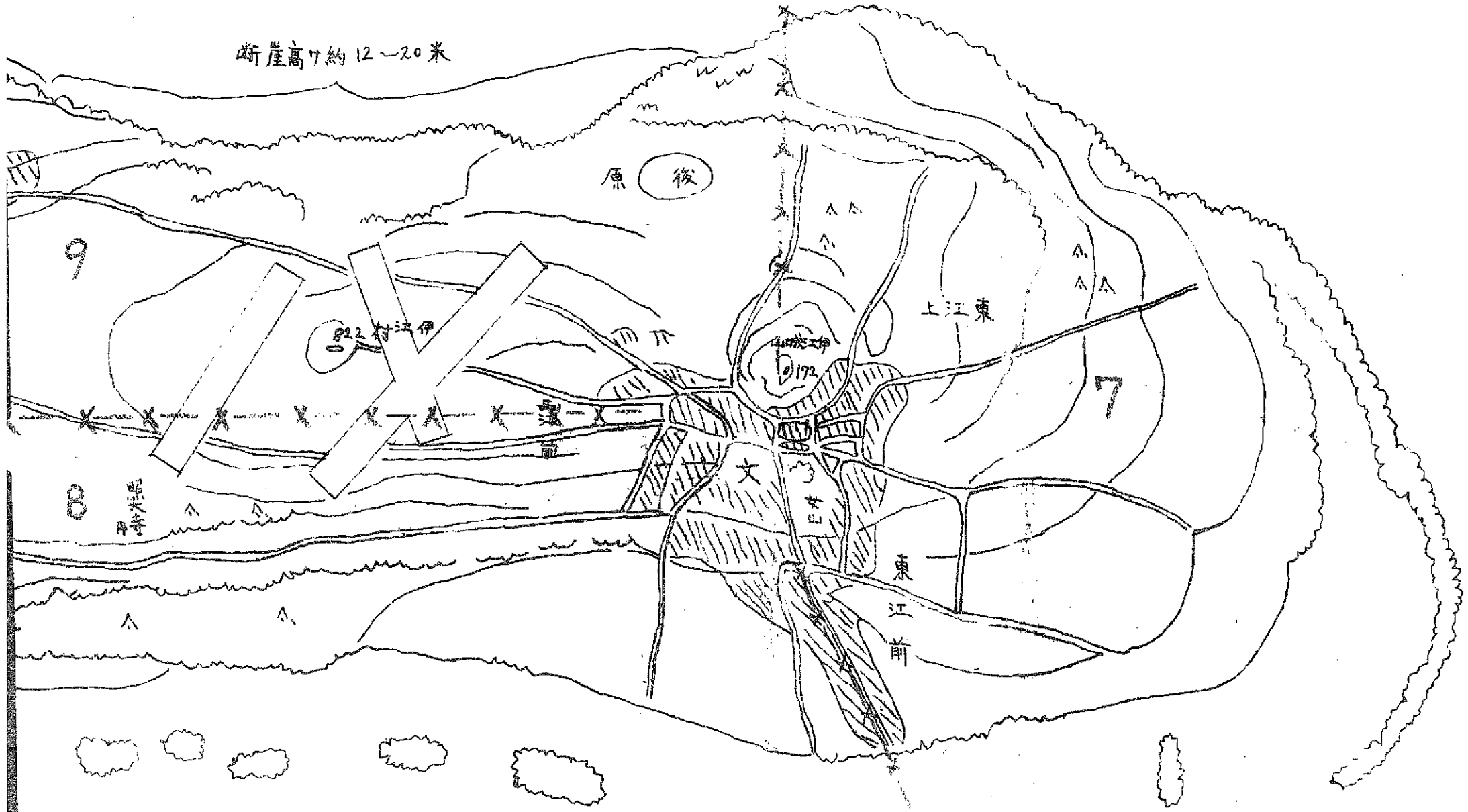
三 地質ハ殆ト硬性ノ珊瑚礁ナルヲ以テ伊江城山ノ横穴構築一部ノ對戰車壕構築主要火砲ノ徹底セル掩蔽壕ノ構築ニハ是非共テダイナマイ トノ必要トス尚畧村ノ配當ニ関シ顧慮セラレ度

四 水ガ極メテ不足セル現況ニ鑑ミ上司ニ於テモ之ガ對策ヲ講セラレ度 (部隊ニ於テ井テラ掘リタルモ未ダ目的ヲ達成セズ目下對策ニ荷心中ナリ)

警備隊ヨリ獨逸 一小隊(二門)ノ 掩護部隊步兵 二分隊(約)ノ 飛行大隊ヨリ 高射機開銃ニ及 所要ノ掩護部隊 敵襲ニ際シテ本 陣地ヲ死守 陣地ニ特ニ堅固ナラ シム

豫備陣地ハ時日ノ 許ス限リ多數構 築シ如何ナル状況 ニ遭遇スルモ直 チニ對應シ得ル如ク ス

断崖高約12~20米



後原

伊江村

伊江村

上江東

7

9

8

伊江寺

文

子

山

東江前





